

横浜市 歴史博物館 NEWS 40 2016・3

- ◇指定管理者第三期目受託に際して～一、二の所感～
- ◇企画展「君も今日から考古学者!ー横浜発掘物語2016ー」によせて
- ◇インタビュー 鈴木館長が聞く坂詰秀一先生と横浜
- ◇研究余話 横浜市歴史博物館所蔵『本朝世紀』の写本について
- ◇企画展「すくすく育てみんなの願いー出産と育児をめぐるモノがたり」
開催後記
- ◇〈ちょいとミュージアムショップたいむ〉マグカップ
- ◇〈知ってますか?〉自治体・町内会記念誌



肩から上が欠けている土器です。
どこかに動物が隠れてるので
探してみましょう! 答えは3ページ

指定管理者第三期目受託に際して

一、二の所感

今年四月、横浜市歴史博物館は指定管理者の第三期目に入ります。昨年、博物館は第二期の締め括りとして、横浜市ふるさと歴史財団管下の他館と連携して「ヨコハマ3万年の交流」展を催しました。並行して次の指定管理者に応募するため、向う一〇年の様々な企画と事業の実施案を練りました。その結果、幸いにも横浜市の承認をえられ、目下、博物館のスタッフは一丸となり気分も新たに第三期目の準備に追われています。

私は第二期の初めに館長職に就きましたが、館の活動の流れに溶け込むまでに一年ほどかかりました。大学在職中、大学院に博物館学の専攻を設けるために博物館の実情を調べたことはありますが、二〇年近く経つ博物館の現場のプラクティスになじめなかったのです。二〇一三年、私は当博物館で開かれた全国歴史民俗博物館協議会年次集会で講演しました。博物館が地域社会のインフラの一翼を担い

る公共施設であるとする社会理念の確立、社会教育（生涯学習）が学校教育と共に必要な高齢社会の到来を強調するものでした。これに対する参加者の共鳴はありました。しかし私の耳に残ったのは、高尚であるが経験の浅い博物館論を人々に聴いたという意味のある有力者の弁でした。

ここに博物館をめぐる問題が色々と浮

かび上がります。理論（理想）と現実のギャップの問題ともいえるでしょうが、まず博物館が密接に関わる社会教育、その主要な要素である生涯学習の位置づけの変化に注目する必要があります。教育基本法、社会教育法上、博物館は社会教育の場であり、事実、以前は自治体の教育委員会で学校教育と並んで社会教育の部門があるところが多かったのです。ところが近年、文部科学省では生涯学習政策局の下に社会教育課があります。横浜市教育委員会では六年前に生涯学習部が廃されて、今は総務部の下に生涯学習文化財課が置かれ、文化財係の下に博物館などが配されています。こうした変化は今日の社会情勢、教育環境の反映であるのでしよう。では社会教育、生涯学習の現実はどう対処し、次のステージを目指すべきでしょうか。

博物館の内なる問題としては、博物館リテラシーがあります。これには先年の小著『相模の古代史』でも述べましたが、館長リテラシー、学芸員の社会リテラシー、事務職員の博物館リテラシーがそれぞれに求められます。加えて四月から始まる展示解説ボランティアの活動にも関わる市民のリテラシーが新たな課題です。館を利用する市民は情報、知識をもとにして活用する基礎的な能力が必要ですが、ことに解説者は研修や自修などに

よって蓄えた能力と合せて、市民目線で博物館活動にこれまで以上に関与する役割を任せられます。市民を代表し、館との間を緊密に取り持つ存在としての責任が生じるのです。博物館は市民の声を踏まえて業務や方針、理念を見直し、運営するスタイルを実現することが期待されるでしょう。

当博物館は展示にもみる通り地域博物館でありながら、大都市の博物館の一つであるという特性があります。昨年十一月、パキスタン北部のシルクロードに近いハザラ大学の考古学、経済学、観光学の研究者、院生たちが博物館と大塚・歳勝土遺跡公園の視察に來られました。視察

のあと、彼らは宅地化、都市化の進むなかで三分の一の保存がなされた遺跡と市民の憩う公園、それと偶々目にした大勢の小学生在が学ぶ展示室の光景に対して羨望と驚嘆の言葉を発しました。地域博物館がまず文化財の保存を重視し、展示で市民に公開するのは当然のルーティンワークです。開発と紛争による破壊とでは位相をかなり異にします。しかしそれを超えて、私は戦禍を被るなかで文化遺産の保護に努める彼らと問題意識を共有できるような世界規模の視野と行動を具える必要性を感じました。当博物館もそうした動きと無縁でないと気付かされたのです。



横浜市歴史博物館館長
（公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団理事
國學院大学名誉教授）
鈴木靖民

●一九四一年、北海道に生まれる。一九六九年、國學院大学大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。日本古代史、東北アジア古代史専門。

一九八七年より、國學院大学教授。二〇一二年四月、同大学名誉教授。二〇一二年七月、横浜市歴史博物館館長就任。

●主な著書『古代対外関係史の研究』（吉川弘文館一九八五年）、『日本の古代国家形成と東アジア』（吉川弘文館、二〇一二年）、『倭国史の展開と東アジア』（岩波書店、二〇一二年）、『日本古代の周縁史』（岩波書店、二〇一四年）、『相模の古代史』（高志書院、二〇一四年など）。

企画展

「君も今日から考古学者！」

— 横浜発掘物語二〇一六 — によせて



磯子区三殿台遺跡の復元竪穴住居

れています。考古学とは主に発掘調査で見つけたモノについて、いつ・どこで・だれが・何を・なぜ・どのように作り、使用したのか考える学問です。

今回の企画展示「君も今日から考古学者！」では、考古学者が土器や石器のかげらのどこに注目して、昔の人のくらしを調べているかについて、横浜市内の発掘調査で見つけたモノをとおしてみささんと考えていきます。

この展示により、横浜市歴史博物館の常設展示室や別の博物館の展示を、新た



いろいろな土器の破片

な視点で見学する方法が身につく、今まで見てもよく分からなかった小さなかけらについての理解が深まることを期待しています。

その他の展示として、入口には発掘調査現場を再現し、いつもはなかなか入ることができない発掘のようすを見学できるようにします。また、横浜市内で現在も見学できる遺跡を紹介し、身近に考古学の成果を見学できる場所をご案内します。ここでは、日時限定ですが、VR（ヴァーチャルリアリティ）を利用し、展示室にいながら遺跡にいるような仮想体験ができるブースも設置する予定です。

今回の展示をとおして、一人でも多くの方が、考古学からどのようなことが分かるのかを知り、考古学や発掘調査のことを身近に感じていただければ幸いです。

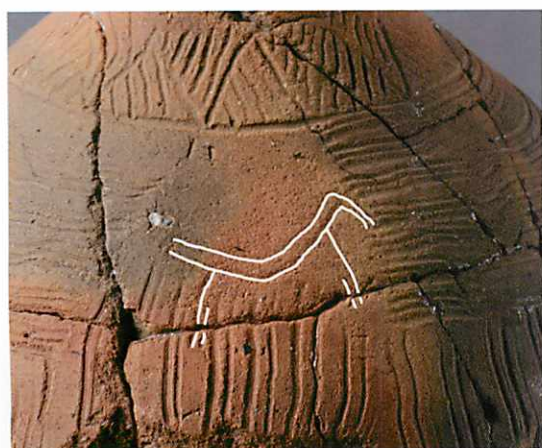


VR体験のようす(イメージ)

表紙写真解説

表紙で紹介した写真は、都筑区折本西原遺跡のY49号住居跡から見つかった弥生時代中期の壺形土器です。線刻された文様の中央部やや上に、鹿とみられる動物が表現されています。鹿は弥生時代では、食料にされていたり、角で作った道具が見つかったりしている身近な動物でした。どこにいるのか見つけることはできましたか？「鹿に見えない」と思われたそのあなた！この資料は企画展示室で展示しますので、是非実物の見学にお越し下さい。

(橋口豊)



線刻された鹿

歴史博物館(歴史資料館)は、地域の歴史を気軽に知ることが出来る場所として、全国に設置されています。このような施設に足を向けたとき、土器や石器のかげらの展示ケースの中で、きれいに並んでいるのを目にすると、その脇には「いつ頃のものである」、「使い方はこうだ」、などの解説が付いています。皆さんは「なんで小さなかけらなのに、色々なことが分かるのだろうか」と不思議に思ったことはないでしょうか？

これら展示品の多くは、昔の人が生活していた遺跡の発掘調査により土の中から見つかったモノです。そこに添えられた解説文は、考古学の成果によって書か

鈴木館長が聞く坂詰秀一先生と横浜

立正大学名誉教授
坂詰 秀一 (さかつめ・ひでいち)港北ニュータウン付近で
土器拾いをしていた

鈴木 私ども、横浜市歴史博物館では開館以来、横浜にちなんだ考古学や歴史をテーマとした特別講演会を実施してきました。今回は坂詰先生にお願いして「横浜考古学史話」ということで、大変興味深いお話をいただきました。この場では改めまして、先生が考古学を始められた経緯や、横浜地域にまつわるお話を伺います。

坂詰 まず、考古学に興味を持った切っ掛けは疎開先から帰り東京・谷中の小学校に戻ったとき、最初に配られた教科書

に縄文土器の写真が掲載されていました。私が生まれ育った家の家業は寺でした。それまで家にあった本には神様のことが書かれていましたので、その土器の写真がとても新鮮に映りました。その体験が原点となったのは間違いないのですが、さらに立正中学に入学した時に、柳田国男先生の門下生のひとりだった島袋源七先生と出会い、興味を深めていきました。島袋先生は、ご自身の故郷である沖縄の民俗学の研究を進めると同時に、立正中学の教員として、歴史の教鞭を執っておられました。先生は「歴史の教科書だけではダメだ」と常々おっしゃり、書かれたものだけではなく、調査や発掘を通じて学ぶことの重要性を説いておられました。そこで私ははじめて、考古学の重要性を意識したのです。

鈴木 そんなにお若い時期から実際の現場で発掘に関わっていたのですか。

坂詰 当時、中学の地歴クラブに入って、趣味として楽しんでいた程度のことです。当時は登呂遺跡の発掘などが盛んな時期でしたので、周りにも関心の高い友人がいましたし、土器を拾って歩くのがちよつとした流行り事のひとつになっていました。神田の古書店で「貝塚」という雑誌を入手し、そこに現在の港北ニュー

タウンに当たる地域の遺跡について書かれた記事が掲載されていました。どうやら、そこにいけば土器がたくさん拾えそうだと、これは面白そうだと思っていたら、クラスメイトのひとりの親戚がその近くに住んでいることがわかり、連れだって出かけてみたのです。その発掘現場で、高津真亮さんに巡り合ったのです。非常によく面倒をみてくださって、色々ご指導をいただく中、鶴見川流域の踏

査がはじまり、そこでかなりの資料を拾うことができたのです。それが、実際の調査や発掘に関わるようになったきっかけとなりました。

鈴木 今回の講演会のチラシに使用されているお写真は、都田中学校の校庭で発掘されているものですが、これはいつごろのものになりますか。

坂詰 こちらの写真は私が高校二年生か

開館21周年記念特別講演会

横浜

考古学

史話

講師 坂詰秀一

(日本考古学会) 立正大学名誉教授

2016
1/30(土)

14:00—15:30

会場:横浜市歴史博物館・講堂

定員:170人 参加費:無料

※応募者多数の場合は抽選となります。

横浜市歴史博物館

〒224-0203 横浜市都筑区中川中央1-1-1

Tel. 045(912)7777 Fax 045(912)7781

http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/

横浜市の考古学的調査と研究で成果を残した石野塚をはじめとする考古学者の姿と横浜の考古学のあゆみを、歴史考古学の第一人者が自身の携わった調査を交えながら語ります。

①申込み・抽選はがき②申し込み③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥どこでこの講演会を知ったか⑦特別講演会にご希望の頁を明記の上、右記の宛先までお送りください。お申し込み一週につきお一人様まで、応募者の定員を超えた場合は抽選となります。インターネットプログラムを使って博物館のウェブから申し込みいただけます。(メール・ファックス・電話でも可。抽選開始は1月13日です。)

【抽選日】1月13日(水)必着(インターネットは1月13日17:00まで)

※結果は抽選日から一週間以内にお知らせします。万一、一週間経っても抽選がない場合は、お手数ですが右記までご連絡ください。なお申込みに関する個人情報、他の目的には使用いたしません。

横浜市歴史博物館(公)は横浜市立歴史博物館(公)の所管する施設です。写真・複製・転載は、ご遠慮ください。

講演会チラシ
都田中学校(都筑区)校庭で行われた第3号住居跡発掘調査 昭和28年(1953)

ら三年生になる時に写したものです。考古学と言うものにしっかりと向き合って勉強しようとしたころの写真ですね。ここに写っているのは、当時、一緒によく土器採集などをしていた仲間たちですが、残念ながら私以外、誰も考古学の道に進んだ者はいませんでしたね。

横浜エリアに関係した考古学者たちとの交流

鈴木 港北ニュータウンの発掘調査は、ずいぶん貴重な成果を得られたと評価してきましたが、それよりずっと以前から先生が土器採集や発掘をはじめていらっしやったことに大変驚きました。それから先生は一九五九年から九一年までに、横浜に限らず箱根や小田原、川崎と調査・研究領域を広げられました。源東院貝塚、三殿台、白井坂埴輪窯、箱根の旧石器や駒ヶ岳頂上の遺跡など、私から見ても重要な遺跡に、必ずと言って良いほど関わっておられます。講演でも横浜の考古学の先見性について語られておりましたが、この地に縁があると考えても良いでしょうか。

坂詰 そうですね。色々と関わってきましたが、もともと印象深いのが白井坂の埴輪窯ですね。吉田格先生が勤務されていた武蔵野郷土館に埴輪がないので、「川崎から出土した」という話を聞いたから坂詰君、なんとか入手してくれないか？」と命を受けまして。現地に飛んで行ったら、埴輪のかけらだけ、それで残された窯跡を発掘しました。発掘を終了し、一ヶ月以内に『武蔵野』という雑誌に原稿を書い

てくれ」と、これまた吉田先生から厳命が下されまして、慌てて報告をまとめたのを覚えています。

鈴木 吉田先生は「称名寺式土器」の提唱など、立派な業績のある方ですね。他に、横浜、神奈川絡みではどのような先生方と親交を深められましたか。

坂詰 講演でもお話ししました武相学園の石野瑛先生。先生とは、一度しかお会いしたことはなかったのですが、残されている研究論文などから大きな影響を受けました。「横穴古墳の編年研究」や「先史時代の三浦半島」などで知られる赤星直忠先生とは手紙のやりとりをさせていただいたり、先生の古希のお祝いに出席させていただいたりもしました。岡本勇先生には、都田中学校や三殿台の発掘でお教え下さったのですが、本当によい先生でひとりひとりの日誌に丁寧にコメントをしてくださったり、ご指導をしてくださりとにかく人の面倒をよく見て下さる先生でした。先生から多くのことを学んで、考古学の世界へと足を踏み入れていった教え子もたくさんいるのではないかと思います。

これからの考古学、そして博物館の役割

鈴木 そのようにおっしゃる坂詰先生もまた、多くの後進を指導し、薫陶を与えてきた存在であると感じています。そういった意味で、当館のような地域の博物館の役割なり、今後の考古学に対してな

さい。

坂詰 私も品川歴史博物館の館長として、様々な提言をしてきました。あくまで個人的な意見ではありますが、地域の博物館といえども、学界でも通用するような、使える展示の図録をだしていかなければ、その存在価値が危ぶまれると思っています。

考古学の行く末についても思うところがあります。少々、厳しい見方をすれば、このままでは日本の考古学は早かれ遅かれ、衰退していくのではないかと。現在の日本の行政の枠組みの中では、遺跡の計画的調査、予算確保は厳しい面があると感じていますし、今後、さらにこの傾向は強まっていくでしょう。私が提言するのは、学問としての考古学ではなく、行政の枠内の考古学、また、観光考古学という見地で、手を携えあいながら研究をすすめる考え方です。遺跡を発掘し、それが観光に役立てば、人員も予算も確保できます。一方、学者が行政と共に研究を深めることができるようになり地域の市民も歴史に触れることができます。そういった動きは各所でも起こっていて、東京の府中市などが成功事例を残しています。

鈴木 非常に貴重なご意見をありがとうございます。私どもも横浜に根ざした地域の博物館として、まだまだやるべきことが残されているということですね。とにかく坂詰先生は、遺跡、遺物を中心とした、カタチのある歴史資料を重視しながら、きめ細やかに考察を重ね、数々の問題提起や学説の提唱をされてきました。考古学はもちろん、歴史学全体の牽引力になっていると感じております。さらに研

究者を組織される指導力や企画力をも存分に発揮しておられます。今回のような講演に限らず、今後とも高いところから私どもを御指導いただければ幸いです。本日は長時間にわたって貴重なお話をいただき、誠にありがとうございました。

立正大学名誉教授
坂詰秀一（さかつめ・ひでいち）

●一九三六年 東京都生まれ
一九六〇年 立正大学大学院文学研究科（国史学専攻）修了課程修了
現在 立正大学名誉教授 文学博士

●主な著書 『歴史考古学研究』・Ⅱ（ニューサイエンス社）一九六九年、一九八二年『歴史考古学の視角と実践』（雄山閣出版）一九九〇年『太平洋戦争と考古学』（吉川弘文館）一九九七年『仏教考古学の構想』（雄山閣出版）二〇〇〇年『歴史と宗教の考古学』（吉川弘文館）二〇〇〇年『考古学抄』（ニューサイエンス社）二〇一六年



横浜市歴史博物館所蔵『本朝世紀』の写本について

横浜市歴史博物館では、歴史書『本朝世紀』の明治時代の写本二十一冊を所蔵しています。『本朝世紀』は官撰の六国史を継承する史書として、平安時代の末期(十二世紀)に編さんされました。編者である信西法師は当代随一の学者・政治家で、その学識を見込んだ鳥羽院の命を受け編さんに着手しました。信西はのちに後白河院の近臣として政治に辣腕をふるいますが、平治の乱のクーデターで殺害されてしまいます。そのため『本朝世紀』は未完成のまま現代に伝わりました。この本には十世紀の関東に大きな影響を及ぼした承平・天慶の乱の時代の記録が含まれることから、当館の展示等に活用する目的で収集しました。

『本朝世紀』の最古の写本は伏見宮家に伝わった鎌倉時代のもので、現存する諸本の元となった貴重な本です。ところが明治時代の初めまでに四十余巻のうち約半数が散逸し、残る二十一巻も傷みが激しくなったため、宮家では消滅を恐れて複本(写し)を作成することになりました。こうして明治四年(一八七一)から翌五年にかけて写された伏見宮本の複本が、当館の所蔵する『本朝世紀』であり、奥書には複本作成の経緯が、筆写を行った宮家の職員・浦野直輝の署名・花押とともに記されています。奥書の信頼性について検討してみると、イ、奥書に記載された年代

に浦野が宮家職員として在職していたことが、伏見宮家の日記から確認できると、ロ、伏見宮家旧蔵の『本朝世紀』写本は戦後に宮内庁書陵部に移管され、再整理が行われますが、当館所蔵本は再整理前の状態を反映しており、宮家の所蔵段階で写されたものと考えられること、この二点から、書かれていた内容は信頼できるものと判断されます。

伏見宮家には『本朝世紀』以外にも古記録が多数所蔵されており、明治六年(一八七二)から同八年にかけて、浦野を中心として網羅的な複本作成事業が行われました。この時作成された複本群は「伏見宮御記録」とよばれており、現在所在が不明ですが、宮内省で作られた写し八十七冊・目錄一冊が、「伏見宮記録文書」として宮内庁書陵部図書寮文庫に所蔵されています。これ以外にも「伏見宮御記録」の写しは、東京大学史料編纂所をはじめ数機関に所蔵されており、これらの本を比較することで、元になった「伏見宮御記録」の姿が推測できます。そして「伏見宮御記録」と当館の『本朝世紀』は、伏見宮家では同時期に写された本であるという点で兄弟の関係にあり、「伏見宮御記録」と比較することで、当館所蔵『本朝世紀』の特徴がより明瞭になります。

まず「伏見宮御記録」では、約三六〇もの点数の原本を二年半という短期間で写

していますが、『本朝世紀』は二十一巻分に五ヶ月をかけており、余裕をもって作業にあたったことが見て取れます。また写された本を見比べてみると、「伏見宮御記録」では、原本と異なる字配りで文字を詰めて写しており、その結果、原本で約三六〇もの点数に相当する分量が八十七冊の冊子に編まれています。これに対して『本朝世紀』では、原則として原本の字配り通りに、二十一巻分が二十一冊にゆったりとまとめられています。

驚くべきことに、『本朝世紀』では字配りのみならず、虫食い穴の形までが原本に忠実に再現されています。写真による複製が一般的でなかった時代に、原本を見ながら写し取るという手作業によって、資料の現状をできる限り正確に後世に残そうとした、明治の人の努力と情熱に頭の下がる思いがします。

※相曾貴志「伏見宮記録文書の成立」『書陵部紀要』第六六号 二〇一五

(柳沼千枝)



表紙

企画展

「すくすく育て みんなの願い」 ―出産と育児をめぐるモノがたり―開催後記

昨秋、ちよつと風変わりなタイトルとテーマの展示会を担当しました。ここではその展示会での「チャレンジ」についてお話しいたします。会場では現代から過去にさかのぼる形で、かつての出産や育児事情を紹介し、そこにまつわる人々の願いや悩み、あるいはモノやコトにスポットをあてました。もちろん、多岐にわたる出産育児に関わるすべてを取り上げることはできませんが、実は、博物館業界の中でこうしたテーマに焦点をあてること自体、類を見ないチャレンジでありました。

出産や育児に関するニュースは日々世間を飛び交い、世の関心事としてお茶の間の話題にもあがります。しかし、出産や育児にかかわるコトはもとより、展示会にはかせないモノは非常に残りにくいものです。特に、ベビーベッドや肌着、ほ乳瓶など、乳児期にしか使わないモノは、我が家の子育てが終わると、それを必要とする親



① 育児ママによるミュージカル「イクミ」。息の合った動きが印象的でした。



② ねがいごとを書くと画面の中に「デジタル」が現れ、おもしろい動きが印象的でした。

戚や友人に譲られます。あげた、もらった、という経験のある方も多いと思いますが、このようなモノが手元に残ることは少なく、使い捨てではなかった時代にあつてはなおさらです。博物館に寄贈されるものには様々なモノがありますが、出産や育児にかかわるモノは集まりにくいものの代表です。今回の展示会では偶然にも残されたモノを紹介しましたが、ありそうで見かけない、こうしたテーマの展示会にはそんな事情もあるのです。

子育て中の方にとって、子連れで博物館を訪れるのは少々気が引けるものです。静かな雰囲気の中で子どもが泣いたり騒いだりしたらどうしよう、と不安は尽きません。育児中の担当も子連れで他館を訪れる時は気を遣います。そうした経験から、子連れでも来館しやすいように、エントランスには都筑アートプロジェクトによるキッズスペースを設置し、横浜生まれの育児用品を取り扱う会社ダッドウェイさんには授乳室や休憩室を楽しくプロデュースしていただきました。会期中は館内に響く子どもの楽しそうな声が印象的でした。

さて、今回は関連イベントも多くがチャレンジでした。従来、実施してきたような「カタイ」歴史ものは少なく、親子連れやお子さんだけでも楽しめるもの、来館の記念になるものを多めに、と心がけて企画しました。親子デジカメ講座や伝統的な子どもの魔除けである背守りをつくるワーク

ショップ、孫育てに関する講演会のほか、育児ママによるミュージカル「イクミ」、市立太田小学校の4年生による紙芝居上演などはそうしたチャレンジの一環です。

会場内には、クイズパネル、記念写真撮影コーナー「昭和の子どもなりきりスタジオ」、富士ゼロックスさん協賛の「デジタル地蔵」や「デジタルおしやもじさま」など、アナログとデジタルそれぞれの長所を取り入れたコーナーを設けることができました。また、通常は大人向けと子ども向けの解説文章を分けて設置しますが、本展ではあえて子ども向けは設置しませんでした。それは、親から子へあるいは祖父母から孫へと、展示内容を伝え、家族とともに考えて頂きたかったからです。アンケートでも、他人の話し声が気になるという方はほとんどなく、むしろ子どもの声が心地よいBGMとなり、会場内は本当に暖かい雰囲気になりました。

本展ならびに様々なチャレンジは、多くの方々のご後援・ご協賛・ご協力をいただき無事に終えることができました。末筆ながらここにあつく御礼申し上げます。この展示会で得た成果を今後の博物館の活動に活かすべく、新たなチャレンジを続けていきたいと考えています。引き続きのご支援をよろしく願います。ありがとうございます。

(羽毛田智幸)

ちよいと

ミュージアムショップたいむ
Museum Shop Time

マグカップ

今回は、大好評のオリジナルマグカップを紹介します。

このマグカップの図柄は、開港期に描かれた、横浜浮世絵と言われているもので、その中から「外国人物鑑 亜米利墨」がいくつものつくし、あめりか、「外国人物鑑 英吉利」がいくつものつくし、いきりすをモチーフにデザインしました。どちらも1860年ごろ、開港期の横浜で見た、外国人の姿を、誇張を交えて描いたものです。

周囲の帯模様は、当時、盛んに輸出された、お茶のラベルをデザインに用いました。

ちなみに、茶の輸出は、1867(慶応3)年には、全輸出品価額の約15%を占めるまでになったそうです。茶の輸出について、結構多かったんですね！是非、みなさんもこのマグカップを手にとり、図柄を見ながら、ちよつぱりノスタルジックな気分になり、☆素敵なお茶のひととき☆を演出してみたいですね。同じくショップで大好評の縄文タタキ(一枚140円、税込)と一緒にどうぞ！



▲オリジナルマグカップ 1,296円(税込)

知ってますか

自治体・町内会記念誌

横浜市歴史博物館に図書室があることはみなさんご存じの通りか
と思います。来室経験のある方はど
のような本をお使いになりましたで
しょうか。図書室には、展示に関わ
る資料や個性的な地域資料が色々
ありますが、意外に知られていない
ものも数多く所蔵しています。その
一つが、ご寄贈いただいた横浜市の
自治会や町内会の記念誌といえます。ミクロ単位の地域の歴史をひもと
くとき、足もとの文化を最も真摯に考えておられる自治会・町内会の方々が
まとめたものは大変貴重で、後世にぜひとも残しておきたい資料群となり
ます。しかしながら、その発行に関する情報はなかなか網羅することが難
しい状況です。図書室では、世代交代がすすむ地域の住民層を考えたとき、
今後積極的に収集していきたい資料ととらえています。お手元に、『〇〇町
内会記念誌』『〇〇地域の歴史』というような本がある、あるいは刊行の予
定があるという方は、ぜひ横浜市歴史博物館図書閲覧室にご一報いただけ
ると幸いです。



(古川恵美)

これからの催しもの

- ◎4月2日(土)～6月5日(日)
企画展「君も今日から考古学者!ー横浜発掘物語2016ー」
- ◎6月18日(土)～7月10日(日)
連携企画展「浮世絵通史小事典」(仮題)
- ◎7月23日(土)～9月4日(日)
企画展「よみがえる学校の文化財ー地域の“かがみ”学校内歴史資料室ー」(仮題)
- ◎9月24日(土)～11月27日(日)
寿福滋写真展「杉原千畝と命のビザーシベリアを越えてー」(仮題)

編集後記

春の展示は「君も今日から考古学者!」。小学生にも分かりやすく、大人にとっても為になる、
体験イベントも多い展示です。5月には「大塚遺跡
まつり」も開催予定。ぜひ考古学を楽しみに博
物館へお越しください。

横浜市歴史博物館 日誌

二〇一五年十月一日～二〇一六年三月三十一日

- 10月～11月 第4回 都筑・道助公園・民家園 アート月間
- 10月4日 都筑アートプロジェクト「ニュータウンコースト～道助とアート」(11月1日まで)
- 10月10日 企画展「すくすく育てみんなの願いー出産と育児をめぐるモノがたりー」(11月23日まで)
- 10月10日 企画展「都筑アートプロジェクトによるキッズスペースーオパケを描こう!ー」(11月23日まで)
- 10月10日・11日 体験学習「縄文土器を粘土でつくろう」
- 10月14日 企画展「やさしい展示解説」
- 10月18日 企画展「育児ミュージカルKUMINS」
- 10月20日 企画展「親子デジタル講座ーママは今日からカメラマン!ー」
- 10月21日 ふるさと横浜探検「鶴見川中流域のフィールドワーク」
- 10月27日 企画展「縄文土器上展ーよこはまのおもしろいモノとまわりじょう」
- 10月28日 企画展「手作りワークショップー子どものおもしろいモノとまわりじょう」
- 10月29日 企画展「やさしい展示解説」
- 10月31日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示の解説【原始Ⅰ】」
ラストサタデープログラム「おもしろいモノとまわりじょう」
体験学習「縄文土器を粘土でつくろう」野焼き
- 11月4日 企画展「やさしい展示解説」
- 11月8日 企画展「縄文土器上展ーよこはまのおもしろいモノとまわりじょう」
- 11月11日 ふるさと横浜探検「東海道戸塚宿周辺を歩く」
- 11月12日 企画展「歴史講座 横浜市の産業発展あれこれ」
- 11月14日 企画展「やさしい展示解説」
- 11月18日 企画展「講演会 今どきの子育てを知って、子育てを楽しもう!」
企画展「手作りワークショップー子どものおもしろいモノとまわりじょう」
企画展「親子デジタル講座ーママは今日からカメラマン!ー」
体験学習「そうり編み」
- 11月22日 体験学習「ミニ展示「縄文土器を粘土でつくろう」(3月31日まで)」
- 11月27日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示の解説【原始Ⅱ】」
- 11月28日 ラストサタデープログラム「おもしろいモノとまわりじょう」
- 12月5日 平成27年度横浜市指定・登録文化財「横浜の道助展「港北の狩人たち」(11月1日まで)」
第29回エントランスホールコンサート「サキソフォンカルテット〜ウィンターコンサート〜」
- 12月5日・6日 体験学習「和風」
- 12月19日 文化財「道助展「プロアレクチャー」
- 12月23日 歴史講座「近世 開港 開港しなかった江戸」
- 12月26日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示の解説【古代】」
ラストサタデープログラム「おもしろいモノとまわりじょう」
- 12月26日・27日 文化財「道助展「街頭紙芝居の実演」
- 1月9日 収蔵資料ミニ展示「汽車土版」(1月17日まで)
- 1月10日 道助展「近世 開港 開港しなかった江戸」
- 1月16日 文化財「道助展「プロアレクチャー」
- 1月17日 歴史講座「中世 中世の絵巻」
- 1月23日 収蔵資料ミニ展示解説
ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示の解説【中世】」
ラストサタデープログラム「おもしろいモノとまわりじょう」
- 1月30日 企画展「称名寺貝塚ー土器と縄文土器と縄文人ー」(3月21日まで)
- 1月30日・31日 開館21周年記念特別講演会「横浜考古学史話」
- 2月6日 体験考古講座「縄文土器づくり」(全4回)
- 2月7日 企画展「プロアレクチャー」
- 2月11日 企画展「出張講演会 称名寺貝塚ー四千年前の金沢のくらし」
- 2月13日 収蔵資料ミニ展示「道助展「漢書」(2月21日まで)」
- 2月13日・14日 体験学習「紙すき」
- 2月20日 歴史講座「民俗 館蔵の汽車土版について」
- 2月21日 収蔵資料ミニ展示解説
体験学習「小さな縄文土器」
- 2月27日 企画展「研究講座 称名寺貝塚と交流」
ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示の解説【近世】」
ラストサタデープログラム「おもしろいモノとまわりじょう」
- 3月5日・6日 企画展「研究講座 称名寺貝塚と縄文土器」
- 3月12日 企画展「研究講座 称名寺貝塚の生業」
- 3月16日 収蔵資料ミニ展示「本朝世紀・六波羅合戦絵巻」(3月21日まで)
- 3月16日 企画展「道助展「歩 称名寺貝塚周辺を歩く」
- 3月19日 歴史講座「古代 ある数奇な歴史」
- 3月20日 体験学習「小さな縄文土器」・体験考古講座「縄文土器づくり」野焼き
企画展「プロアレクチャー」
2階ロビー作品展「私たちがつくった縄文土器展」(3月27日まで)
- 3月21日 収蔵資料ミニ展示解説
- 3月23日 バスツアー「南房総の中世城郭を訪ねて」
- 3月26日 ラストサタデープログラム「学芸員による常設展示の解説【近現代】」
ラストサタデープログラム「おもしろいモノとまわりじょう」

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

●開館時間

午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

●休館日

歴史博物館・大塚遺跡
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

●常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

◆特別展・企画展の観覧料は別に定めます。

◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。

◆「演ともカード」・「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」 「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●交通案内図 横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分

(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



駐車場あり(1時間200円)

●インターネットホームページ <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

●@yokorekihaku

